

## 今後の活動方針について（案）

- コンソーシアムの設立趣旨（マイクロデータを学術研究に利用する立場からも、今後、政府と連携してオンサイト施設を全国的に開設し研究環境の整備を推進し、我が国における公的統計マイクロデータの研究利用（二次的利用）を促進するために、学官産が一体となり、取り組むことを目的）を踏まえ、

- 公的統計マイクロデータ分析の普及・啓発
- 公的統計マイクロデータの研究利用促進に係る学官産連携の推進
- オンサイト施設の設置・運用に係る課題の検討
- その他公的統計マイクロデータの研究利用推進に係る事項の検討

の活動を通じ、研究環境の整備を図る。

- また、入会メリット、コンソーシアムを通じたアカデミアの発展、公益への貢献を図っていく観点から、以下の取組を進める。

- 官側からコンソーシアムへの定期的・随時の情報提供を通じ、当該情報を会員に提供。特に、利用者の視点から訴求効果が見込まれる内容を積極的に情報発信。逆に、会員側から官側に意見を言える場として、コンソーシアムが会員に対しアンケート等を実施・集約し、（必要に応じて評議会を経たうえで）官側に提示
- 官側がサービス改善などに関し試行的な検証事業を行う際に、コンソーシアム会員が検証に参加
- 会員のマイクロデータ利用を支援するための仕組みとして、大規模な競争的資金の獲得及び当該資金を活用した人材育成やマイクロデータの利用要件を満たすための方策の検討

- このほか、官側との連携を強化し、以下の取組を進める。

- ミクロデータ分析の成果を発表・共有するシンポジウムの開催（官と共催）
- 会員と提供側の意見交換・コミュニケーションの場の形成
- 特定のテーマについて、意見を集約する体制の整備（必要に応じてタスクフォースを形成）。
- ミクロデータの利用（申請や持出手続き、データ形式等について）に関する研修会の開催（官と共催）や相談窓口の設置
- オンサイト利用を前提とした研究助成の仕組み（統計数理研究所における共同利用の枠組みの活用）の検討

資料 5

- さらに、マイクロデータ利用に関する関係者との連携を一層強化するとともに、コンソーシアムの活動を持続的に発展させる観点から、以下の取組について検討する。
  - 現在 7 月又は 8 月に開催しているシンポジウムと 11 月に開催している統計数理研究所共同利用集会の発展的統合（例えば、新たにユーザー会的位置付けのイベントとして衣替えし、研究成果報告やユーザーの意見を直接聞く場を設けるなど）
  - 上記統合に合わせ、現在 9 月から翌年 8 月までとしている事業年度を、1 月から 12 月までに変更することを提案する